

別記様式（第3条関係）

開催記録

名称	令和7年度 旧本郷一小跡地（仮称）ほんごうパーク管理運営検討会（第6回）
開催日時	令和7年11月18日（火）18：30～20：30
開催場所	COBACO
出席者	参加者：8名 小野、齋藤、佐藤（信）、竹内、西田、根本、松田、安齋 事務局：5名 建設水道課 課長補佐 佐藤、管理係長 金田、主任主査 猪俣 事業受託者 株式会社コムテック地域工学研究所 脇門、小浦
議題	1. 第1回町民懇談会（9/30）の結果共有 2. 見守り活動の結果について 3. 任意団体の立ち上げに向けた検討状況 4. 事例研究 5. 第2回町民懇談会（11/27）の開催について
資料の名称	・次第 ・資料1（第1回町民懇談会 意見概要） ・資料2（見守り活動の結果について） ・参考：プレーリーダーによる遊びイベント「みさとの遊び場プロジェクト」 ・資料3（管理運営組織の立ち上げと今後の活動、案 運営サポーター） ・資料4-1（事例：プレーパーク事例） ・資料4-2（事例：朝霞の森）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
内容	
<p>上記の議題について資料をもとに事務局より説明。 意見概要是下記のとおり。</p> <p>1. 見守り活動の結果と今後について</p> <p>1) 利用状況と利用促進策について</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初は警戒していた子ども達も、特に近隣の子どもは積極的に遊びに来るようになってきたので、継続すれば「公園だ」と認知していくのではないかと感じている。 特に相手をしなくても、その場にいるだけで、子どもはちゃんと遊んでくれると感じた。 	

- ・このような取り組みは続けていかないと根付かないので、継続が必要。
- ・高齢者や大人はなかなか利用しないので、グラウンドゴルフなど大人が行うチーム活動をやってもらい、子どもと一緒に対抗戦のようなことをしても良いのではないか。
- ・高齢者の方が来ない点については、私自身も高齢者の立場で考えると、テーブルやベンチなどの休憩場所がないと、集まったり散歩をしたりするのは難しいと感じる。
- ・旧本郷一小跡地に整備予定の公園は、全世代、高齢者も若者も男女問わず来られる場所にすることが大きな狙いである。その意味でも、どうしたら高齢者が来られるか、あるいは気楽に来てもらえる場所にしていくにはどうしたら良いかを考えていくことが必要。
- ・桜の苗木を植えるなど、木が育っていくことで、確実にみんなの憩いの場所になっていくと考えている。業者が植えるのではなく、自分達が植えることに関わっていくことが大切。
- ・苗木はみんなでお金を出し合って一本いくらという形で購入できるようにするなど、この公園の中に自分との関わりをたくさん作っていくことが、全世代が関わる場づくりにつながるのではないか。
- ・子ども達は学校から早く帰れない時は、跡地に行きたくても時間がない。学校生活でかなり忙しい。そのことを頭に入れておく必要がある。
- ・時間の余裕があり遊べる状況の時には遊び場としての認知が高まっていると感じた。
- ・子ども達はチラシをもらっても、実際に説明を受けないと内容が分からぬ。説明を付け配るようにした方が良い。子ども達は、どんな場所か分からぬと怖くて入りづらく、敷居が高いところがあったかもしれない。
- ・10月14日のGO郷寺子屋のイベントでほんごうBOXを利用した際には、あいにくの雨でランドセルを置くだけになってしまったが、「大丈夫な場所だよ」と感じてもらうために、まずは知つてもらうことを目的として利用した。

2) 安全管理の課題

- ・大人の見守りは必要。思わぬ怪我が発生するかもしれない。ブーメランが顔に当たる可能性もある。遊びの質を見ながら、安全管理を考えなくてはならないと感じた。
 - ・バスケットボールをするとき、芝生の上ではドリブルができないため、子ども達が無意識に道路に飛び出してアスファルトの上でドリブルをしようとした。ドリブルをしたい一心で飛び出しちゃったのだと思うが、とても危ない状況だと感じた。もしバスケットボールを置くのであれば、公園の中で安全にドリブルができるようなスペースをつくることが必要。小学生は思いもよらない行動をとることがあり、その点を踏まえてよく考える必要がある。
- （事務局）遊具が破損しているものもあるので、遊具の点検・整理が必要。また、その使い方についてもあらかじめ考えておく必要がある。

3) 今後の活動の方向性について

- ・続けてきたことで認知度が高まってきたと感じている。
 - ・遊んであげる人がいることで、子どもがいきいきする。
 - ・若い人や保護者への認知を広めることも重要。
 - ・可能な限り色々な意見を取り入れて、すぐ実施してみるスタンスが大切だと思う。
- 様々なことを仕掛けて、認知度を上げていくことが重要。

- ・他団体の方が来て、この場所を活用してくれたら良いと思う。11月8日に開催したプレーパークのようなイベントを月一回くらい実施してもらえるとありがたい。
- ・私達も関わる時には関わりたいし、これまでのよう見守りの日程を何日か設けて、春になればまた何日か応援したいという気持ちがある。それはボランティアでも構わないと思っている。
→（事務局）中心になる人や少し若くて動ける人がいて、この日にやるからぜひ一緒に手伝ってほしい、関わってほしいと声をかけてもらう。それに関わっていく形のほうが現実的であると理解した。

2. プレーパーク事例と任意団体の検討状況

- ・プレーパーク等外部のイベント運営者を受け入れるためにも、今後ある程度の体制を整えていく必要がある。実際に来てもらう時に何も用意できない状況は望ましくない。今年度中にある程度の見通しをつける必要がある。
- ・任意団体の役員やサポートメンバーによる打ち合わせについても、メンバーが固定化してしまうのはあまり望ましくない。もっと色々な人が参画し、仮に毎月この取り組みを行うとしても、毎回同じメンバーでなくても良い。月に一度ここに来るだけでも大変なので、やりたい人が入れ替わりながら参加していく形もあり得るのではないか。
- ・事例のプレーパークのいずれかをモデルにして、この公園の運営について案を出してみたほうが良いのではないか。その案に基づいて意見を出し合っていくことも大切ではないか。
- ・色々な意見を出して修正を重ねながら一つの形をつくり、実際にやりながら変えていく、改善していくという進め方が良いのではないか。
- ・これまでの話し合いの中で様々な意見が出てきたので、今後はこれまでのイベントなども含めて、具体的な形を作っていく必要があると感じている。具体的な案があったほうが、みんなも意見を出しやすいのではないか。
→（事務局）今年はまず任意団体として取り組もうという方針で進めているため、参考事例よりも少し簡易的な体制になる。具体的な形については、皆さんと相談しながら決めていくことになるので、改めて議論できればと考えている。

以上